

## 奈良メッセージ

### 「シリア世界遺産の次世代への継承—パルミラ」

奈良、日本

2017年7月13日

6年にも及ぶシリア危機は多くのシリア人の命を奪い、人々の生活に打撃を与えてきた。パルミラを含むシリアの文化遺産の破壊は、全人類の重大な懸念である。奈良で開催された「シリア世界遺産の次世代への継承—パルミラ」国際会議に、日本、ドイツ、フランス、ポーランド、イタリア、ノルウェー、オーストリア、そしてシリアから参加した我々シリア文化遺産専門家は、シリア文化遺産の破壊を強く非難し、全ての関係者がこの危機に曝された遺産の保護のために最善を尽くすことを求める。

我々は、文化遺産の保護において極めて重要な UNESCO 法律諸文書を想起する。すなわち、武力紛争の際の文化財の保護のための条約（ハーグ条約）と附属議定書（1954年）、UNESCO 文化財の不法な輸入、輸出及び所有権譲渡の禁止及び防止の手段に関する条約（1970年）、世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（1972年）がそれである。我々はまた、文化遺産の破壊を非難し、イラクとシリアの古代遺物・文化の違法取引に対抗するための法的拘束力のある措置を採択した国際連合安全保障理事会決議第 2199 号（2015年）、同理事会史上初めて平和と安全のために文化遺産とその保護に焦点をあてた国際連合安全保障理事会決議 2347 号（2017年）への支持を表明する。

奈良には、世界で最も重要とされる文化遺産が数多く存在する。しかし、歴史の中で、奈良の文化遺産も幾度となく破壊の危機に直面してきた。19世紀の終わりには、廃仏毀釈運動により奈良はもちろんのこと日本中の仏教寺院が破壊・毀損された。しかし、奈良の人々は、自らの文化遺産を守るための強い意志と文化遺産に対する愛着によって、そうした困難を乗り越えてきた。

文化遺産は世界のいたる所で、次世代への継承の否定、社会的結束の弱体化を目的とした、意図的な破壊・毀損の憂き目に遭い、荒廃している。特に危機の発生時には、地域社会が文化遺産の価値を理解し、保存するためにその意識や能力を高めることが一層重要となる。

奈良に集う我々は、シリア危機の中、シリアの仲間が文化遺産の保護のために払った多大な犠牲を認知している。我々は、その文化遺産の復元と保護に携わるシリアの人々を支援すると約束する。すなわち、紛争に伴う損害を記録し、破壊された建物の断片を保存し、復元への取り組みを援助するための、訓練、専門機器、最新技術による支援を行う。

我々はこのように、UNESCO、UNDP 及び橿原考古学研究所が専門・学術機関と行う取り組みをはじめとする、シリア人文化遺産専門家の能力育成のための、全ての国際的な取り組みへの支持を表明する。

我々は、シリアの人々に寄り添い、彼らとの連帯及びシリア文化遺産保存へのコミットメントを再確認する。我々は、国際社会に対し、シリアの人々を支援し、将来の平和と回復へ向かう道を開くための我々の取り組みに加わることを強く要請する。